

【中部】全ト協(坂本克己会長)と愛ト協(寺岡洋一会長)は3日、名古屋市の名鉄グランドホテルで物流経営士研修会を3年ぶりに開催。物流大学校講座4、29期の卒業生58人が参加した。

主催者を代表しあいさつした全ト協改善事業部長の金子貴史氏は、物流危機に関わるマスコミ報道や公取委による社名公表などにふれ、「これを追い風として荷主交渉を。その際には講座で培った知識を生かし臨んでいたきたい」と述べた。

研修では、物流ジャーナリストの森田富士夫氏とマイシン(豊橋市)代表の辻直樹氏が登壇。森

## 全ト協と愛ト協 物流経営士研修会

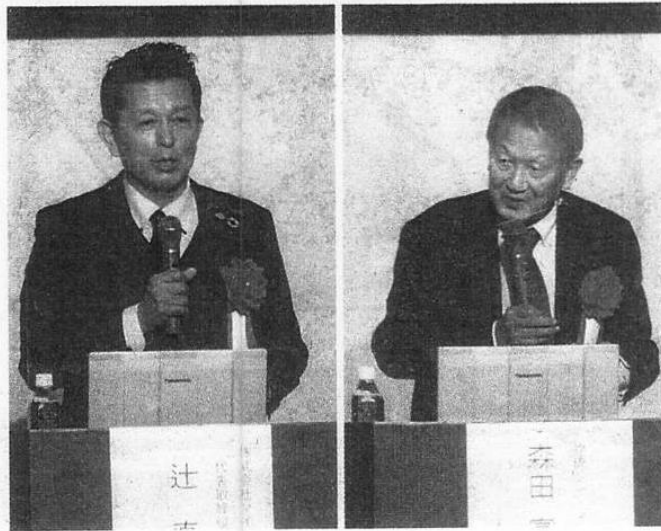
培った知識を

生かし臨んで

田氏は「取材から見えてくる今後の物流とトラック運送業界の喫緊の課題」をテーマに講演し、国内市場の縮小、人口

減少や偏在化の流れに「やるからには徹底的にやる姿勢」をむくことを、取材先で示した。研修後は交流会の場が設けられ、参加

また辻氏は、ドライバー不足や職場環境を超えて親交を深め



講演する森田氏(右)と辻氏

境改善のヒントとなった。寺岡会長も出席する自社の取り組みとし、「縦軸と横軸が例を紹介。人が集ま実によくかみ合っている会社へと道筋を機能している素晴らしい事例を挙げてきた経緯や、しい集まり」と敬意他社からも高く評価を表した。

(富田 香)